

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

校名	府立富田林支援学校
校長・准校長名	校長：向山 和子 准校長：山寄 夏生

開催日時	令和7年6月24日（火曜日） 9時30分～11時30分
開催場所	富田林支援学校 1階 会議室
出席者(委員)	安原 佳子委員 北山 琢也委員 小田桐 茂委員 成澤 佐知子委員 前田 晶子委員 土本 由紀子委員
出席者(学校)	向山 和子校長 山寄 夏生准校長 出浦 美果教頭 木曾 幸葉教頭 間苧谷 眞吾事務長 池田 修三首席 下井 智史首席 築 美緒首席 油井 優子指導教諭
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度学校経営計画及び学校評価（小中学部・高等部） 令和6年度卒業生進路状況 令和8年度使用教科用図書 選定一覧表

議題等(次第順)
1 開会あいさつ 2 出席者紹介 3 報告・協議 （1）令和7年度学校経営計画及び学校評価 （2）令和6年度卒業生進路状況について （3）令和8年度使用教科用図書選定について
協議内容・承認事項等(意見の概要)
◆委員よりご意見 ・高校でのSSWSVの経験から、生活基盤が整っていない生徒が多いと感じるが、全ての府立学校にSSWが配置されている状況にはない。福祉的な課題を抱える児童生徒の事例などをぜひこの協議会で共有したい。 ・路線バスの本数の少なさが職員の通勤に影響を及ぼしていること等、こんごう福祉センターと富田林支援学校は同じ課題を抱えている。今後も連携・協力して、前向きに取り組んでいければと思う。 ・児童福祉施設で子どもの面会に訪れた母親が職員を殺害した事件、小学校で保護者の知人が教員を暴行した事件等を受け、防犯対策の難しさを実感している。不審者対応訓練などを行っているが、対策に力を入れていきたい。 ・本校は児童数71人で1クラス10人前後で運営している。今年度の交流会はすべて富田林支援の児童に来てもらう形で実施した。同じ学年の中にいろいろな子どもたちがいることを学ぶ機会となった。 ・在学中の早い時期から学校と障がい者就業・生活支援センター（以下、就ポツ）が連携し、関わりが持てることありがたい。職員からも、運動会等を見に行き学校での生徒の様子を見たいという声が上がった。
◆協議における意見の概要（委：委員、事：事務局） 委)高等部の学校経営計画「キャリア発達を促す指導・支援の充実」の項目における「関係機関との連携」の評価指数について、保護者の肯定的評価100%と高く設定されているが、事業所説明会の他にどのような取組みをしているか。 事)生徒についてはライフキャリアコースの要件緩和（自力通学の要件を除外）、事業所や訓練校の見学、職業フェスタへの参加等、体験の機会を増やしている。本校は立地条件から自力通学のハードルが高いため、通学バス利用生徒も企業実習に参加できるようにして、就職率を上げていくことも考えていきたい。教員に対しては研修の実施、保護者にはPTAが主体となった事業所見学会等に取り組んでいる。今後さらに内容を充実させていきたい。 事)学校教育自己診断で100%の肯定率が得られることは容易ではない。進路部を中心に「進路ニュース」や資料等を丁寧に作成し、HPでの情報発信等に力を入れてきた成果と捉えている。評価指標を下げることはできないので、100%を維持という目標を設定している。 委)近年、就職後3年程度で離職という状況が増加傾向にあるが、卒業生のアフターフォローや実態調査等は取り組んでおられるか。 事)この約10年の定着率は約70%で、離職した30%のうち約20%が再就職している。再就職先も含めて、状況は把握している。アフターフォローは十分とは言えず、就ポツさんに随分助けていただいている。離職後、自ら就職先を探している卒業生もいる。決まっていない卒業生はB型に行くことが多い。今後は、もう少しアフターフォローに力を入れていきたい。 事)一方、大阪市教育委員会で雇用された事例があり、公務員の場合は就ポツの利用が難しいため、個別に雇用先の学校と連携してアフターフォローに取り組んでいる。

- 委)事業所説明会や見学会等の機会はあるが、特に重度な障がいのあるお子さんの保護者から、実際に仕事を体験したいという声を聞く。11月にこんごう福祉センター内で開催されるイベントにPTAとして参加協力を今検討しているが、ライフキャリアコース以外の生徒でも、保護者と一緒に参加して、校外での作品販売等の経験ができればと思う。タブレット端末の活用について、ロイロノート活用委員会で検討されているということだが、重度な障がいのある方には、どのように活用されているのか。
- 事)例えば、美術の授業でアジサイの絵を描く課題で、色を選択する際、これまでは絵の具のチューブを見て選択していた。これをロイロノートの「アンケート機能」を活用し、多様な色のアジサイの写真を提示することで、指でタッチするだけで選択でき、その結果が教員の画面に集約される。それを全員で共有できるので、誰が何色を選んだのか、結果をすぐに共有できるので、選択のツールとしてだけでなく、コミュニケーションのツールとしても有効である。今後活用を広げていきたい。
- 事)今年、研究部で今一度原点に戻り、環境整備をしっかりと進めようとしている。ユニバーサルデザインの大事な要素は3つあり、まずは焦点化、次に視覚化、そして共有化。いろいろなアプローチの方法があるが、例えば最近、玄関前で毎日ドロップニュースを配信している。毎日2話のニュースが配信され、それを画面に映して子どもたちに届けているが、小学部の子どもたちも立ち止まって見ている。文字を読むことが難しかったとしても、視覚的なシンボルで理解できている。何に興味があるのか気づくきっかけになればと思う。
- 委)卒業後の出口を見据えて、いろいろな体験を積み重ね、子どもに応じて小・中・高それぞれの段階でPTAの方の協力も得ながら様々な取組みをされているのは素晴らしいと思う。これまで工夫しながら個別最適な学びを重ねて、培ってきたことが、「賢者」(校務支援システム)の導入によってシステム化され、効率化の点では意義が大きいですが、大事にしたい部分がシステム化によって消えてしまう部分もあり、悩まれているところがあるのではないかと。
- 事)おっしゃるとおり「賢者」には大事な部分を焦点化して落とし込むことしかできない。教員が子どもの実態をしっかり把握し、どのような力をつけるのか、どうアプローチしていくのかが重要である。子どもの成長過程を「賢者」に全て落とし込むことはできない。小学部段階ではまずは身辺自立、中学部はコミュニケーションの力をつけて個から集団へ、高等部では社会に出るための準備としての学びや実習等を通じて、仕事や施設のマッチングを行う等、それぞれの学部の中で教員間で話をしながら、連携して役割を果たしていくことが大事である。
- 委)システム化の流れの中でも、これまで培われてきた取組みはぜひ大事にしていったほしい。また、どの小学校でも生活の基盤が整わないなど対応の必要な子どもがおり、SSWが拠点校方式で配置され、どの学校でもSSWが有効に活用されている。支援学校でもSSWが配置されると、有効に活用できると思う。
- 委)ライフキャリアコースの中で自力通学をしている生徒はどのくらいか。
- 事)3年生は12人中9人、2年生は10人中5人だったが、コースに入ってから自力通学に挑戦し、今は8人に増えた。
- 委)夏季休業中の実習が始まるが、保護者へのアナウンスはどのように行っているか。就労をめざす生徒も含め、夏の実習は全員が参加するのか、位置付けを教えてください。
- 事)4月に保護者にアナウンスしている。基本的には全員を対象としており、就職希望の生徒も全員、体験している。
- 委)6月の生活介護実習についてはどうか。
- 事)3年生だけが対象となっている。
- 委)大阪市内では実習に5日間来てほしいと言われると聞いている。富田林支援では1日なので、もう少し長い期間参加することはできないものか。
- 事)事業所は通常月曜から金曜まで行くので、大阪市の事業所実習では、福祉は5日間、企業は2週間実施していた。大阪市内は事業所の数が多いため、各校の生徒が5日間ずつ実習に行っても調整できるが、本校の周辺地域のように事業所の数が少ない地域では一人5日間行くと、全員の参加が難しくなるため、現状致し方ない部分があると思う。
- 委)今年度の防犯、防災の訓練等について、具体的な計画が決まっていれば教えてください。
- 事)防犯の事前訓練を先日実施したところ。児童生徒の訓練は今週の金曜に実施予定。これまでは、児童生徒に配慮し、不審者役を校内には入れていなかったが、今年度は警察の不審者役の人が校内に入って見失ったという設定で訓練を行った。防災訓練は毎年夏と冬に実施している大規模訓練に加えて、今年度は、10月27日を防災学習日に設定し、防災に関わる授業を学部間の交流の観点も含め、新たな取組みとして実施する予定。
- 委)いろいろ取組みをされているにも関わらず、教員用の「相談し合える職場の人間関係」や保護者の「教職員の障がい理解」など保護者や教員の自己診断の数値が下がっている項目もあるので、発信が上手くいっていないのではないかと感じる。表に出る数値なのでもったいないように思う。何か対策等はされているか。
- 事)アンケートをGoogleフォームに変更したことで、回答率も肯定率も下がることは他校でもある。また、項目内容を変更したことも影響していると思う。
- 委)先生の人数が多いことも要因と思う。学校の取組みは素晴らしいが、取組みを実行するのは先生であり、160人以上もいると先生によって差は生じる。保護者が一人ひとりの先生とどのような場面で接するかで感想も異なってくる。
- 事)情報発信についてご指摘をいただき感謝。発信の仕方を少しずつ工夫したり、項目をより分かりやすく見直したりしている。「協働性、同僚性の高い教職員集団の形成」の項目の数値が下がってきていることについては、多様な働き方ができる時代になり、一部の教員に負担が増えないように努力はしているが、教員不足も背景にあると思う。より良い学校にしていくという意識を皆が持って、学校づくりに取り組んでいきたい。

次回の会議日程

日時	令和7年10月28日(火曜日) 9:30~11:30
会場	富田林支援学校 会議室